

月刊 しばうら

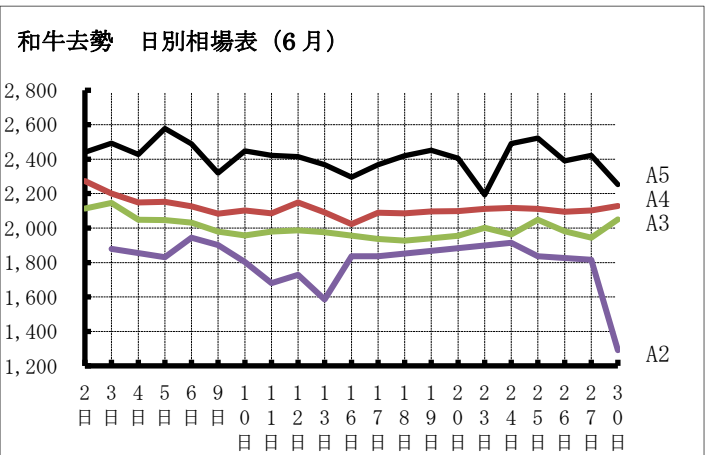
2025 年 7 月号

牛肉営業部

＜6 月の相場動向＞

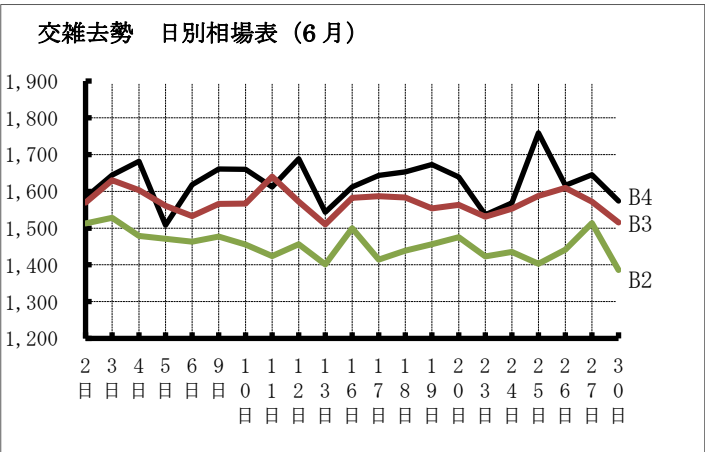
6 月はもともと牛肉の需要が落ち込む時期だが、物価高騰による節約志向の強まりで、需要はさらに鈍化し、相場は前月を下回った。一方で、和牛肉販売促進等支援緊急対策事業の下支えもあり、前年比ではわずかに上回った。

5 月の家計調査によると牛肉の支出は 1,755 円（前年比 2.2%減）、購入量は 445g（同 6.7%減）と減少。一方、豚肉は支出 2,947 円（同 7.5%増）、購入量 1,877g（同 2.3%増）、鶏肉は支出 1,664 円（同 5.0%増）、購入量 1,564g（同 0.3%減）と、価格の安い豚肉や鶏肉への需要が増し、節約志向の高まりがうかがえる。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,428 円	+15 円	100.6%	-74 円	97.0%
A4	2,119 円	+118 円	105.9%	-165 円	92.8%
A3	2,008 円	+162 円	108.8%	-177 円	91.9%
A2	1,753 円	+120 円	107.3%	+9 円	100.5%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,627 円	-17 円	99.0%	-79 円	95.4%
B3	1,567 円	+51 円	103.4%	-70 円	95.7%
B2	1,461 円	+100 円	107.3%	-77 円	95.0%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	—	—	—	—	—
B2	1,236 円	—	—	+39 円	103.3%

＜7 月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、5 月の輸入量は前年同月比 0.2%減の 4 万 8,428 t で、うちチルドは 8.7%減の 1 万 6,242 t、フローズンが 4.7%増の 3 万 2,186t となり、チルドは減少となりフローズンは豪州・米国の主要 2 カ国の増加がけん引し 5 カ月ぶりに前年実績を上回った。

農畜産業振興機構によると 6 月の牛肉輸入数量は、前年同月比 5.0%減の 4 万 5,200t（チルド 13.6%減・冷凍 0.3%増）、7 月は 5.6%減の 4 万 6,600t（チルド 12.0%減・冷凍 1.5%減）で予測している。

冷蔵輸入量については現地価格の高止まりの影響などにより主要輸入先からの輸入量の減少が見込まれることから 6 月、7 月は前年同月をかなり大きく下回ると予測している。

冷凍輸入量については在庫量が比較的高水準であること等から 6 月は前年同月並み、7 月は前年同月をわずかに下回ると予測している。

輸入牛肉通関量		5 月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	9,353	7,821	119.6%
	米国	5,616	8,341	67.3%
	その他	1,273	1,628	78.2%
	合計	16,242	17,790	91.3%
フローズン	豪州	15,863	13,631	116.4%
	米国	10,975	8,692	126.3%
	その他	5,348	8,419	63.5%
	合計	32,186	30,742	104.7%

出典：食肉速報

単位：t

＜7 月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による 7 月の出荷予測頭数は、全体で前年比 98.8%の 9 万 8,300 頭で、品種別にみると和牛は 0.6%減の 5 万 800 頭、交雑種は 0.9%増の 2 万 2,800 頭、乳用種は 6.6%減の 2 万 4,200 頭と予測している。

また、東京食肉市場の 7 月のと畜頭数は 8,300 頭（前年比 3.3%増）を予定しています。

＜7 月の牛枝肉相場見通し＞

7 月に値上げされる飲食料品は 2,105 品目にのぼる見通しで、物価高騰への警戒感から節約志向が続くとみられ、牛肉需要の大幅な回復は期待しにくい。特に和牛は 6 月からの市中在庫が多いとみられるうえ、20 日には参議院議員選挙を控えていることから、お中元などの贈答需要も伸び悩むことが予想される。このため、相場は盛り上がりを欠く展開となりそうだ。

一方で交雑は輸入牛肉価格の高止まりからの代替え需要や夏休み需要に支えられ、3 等級を中心に底堅い相場展開となると見られる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,250～2,500	B4	1,600～1,700
A4	2,000～2,250	B3	1,500～1,600
A3	1,850～2,000	B2	1,400～1,500
A2	1,600～1,850		
乳牛去勢			
B3	1,250～1,350		
B2	1,150～1,250		

豚肉営業部

5 月の全国と畜頭数は、129 万 7,245 頭（前年同月比 4.6%減）と前年を下回った。また、5 月の豚肉通関数量は 9 万 535t（同 3.8%減）と前年を下回り、前月比では 3.7%の減となった。内訳はチルドが 3 万 4,523 t（2.9%増）、フローズンは 5 万 6,012t（7.5%減）となった。

2024-2025 年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
5	76,183	94,087	24,239	189,925	74,520	78,221
6	66,310	81,660	24,750	193,156	65,692	78,429
7	71,679	86,155	23,227	195,529	73,101	83,782
8	65,651	84,078	22,108	200,290	66,675	79,317
9	68,773	78,666	21,580	201,197	69,219	77,759
10	7,9625	86,742	21,384	201,922	79,699	86,017
11	78,361	78,216	21,389	194,797	78,249	85,341
12	80,661	76,518	22,458	185,736	79,425	85,579
1	79,908	80,505	23,536	190,508	78,746	75,733
2	72,607	71,911	24,121	192,819	71,884	69,600
3	76,052	65,956	24,424	192,115	75,606	66,660
4	77,457	93,904	24,518	197,256	77,266	88,763
5	73,100	90,460	24,091	214,149	73,406	73,567
比	96%	96%	99%	113%	99%	94%

出典：農畜産業振興機構

比：最終月の前年同期比

単位：t

5 月 豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	12,726	93.4%	デンマーク	3,849	55.9%
カナダ	19,046	118.6%	スペイン	20,115	112.0%
メキシコ	2,749	71.1%	メキシコ	4,323	72.5%
			アメリカ	7,720	70.9%
			カナダ	4,803	86.2%
合計	34,523	102.9%		56,012	92.5%

単位：t

＜6 月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2 日	55,100	765	737	694
3 日	63,100	812	800	850
4 日	54,700	831	811	637
5 日	60,400	823	796	622
6 日	59,200	820	785	931
9 日	61,500	825	782	823
10 日	62,600	842	802	828
平均	59,514/日			769/日

6 月に入り気温が上昇する中、全国と畜頭数は 5 万頭台の日も見られ、全体として減少傾向となった。国産豚肉の品薄感が高まったことで相場は大きく上昇し、上物は 800 円を超える高値を記録した

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11 日	55,000	825	791	618
12 日	61,600	800	777	679
13 日	56,200	799	775	746
16 日	59,700	776	750	756
17 日	63,100	767	749	863
18 日	54,000	773	752	634
19 日	61,600	749	705	810
平均	58,743/日			729/日

梅雨入りに加え、目立ったイベントもなく、コメ価格ははじめとする物価上昇が重なり、末端消費は盛り上がりを欠いた。一方、出荷頭数が減少したため需給は引き締まり、相場は高値で推移した。こうした相場の急騰を背景に、一部では輸入品へのシフトも見られた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20 日	51,100	756	726	938
23 日	56,700	766	741	600
24 日	62,100	775	747	766
25 日	54,200	773	748	722
26 日	60,600	779	751	665
27 日	54,200	800	787	796
30 日	60,100	841	820	696
平均	57,000/日			740/日

全国的に出荷頭数は減少傾向が続き、5 万頭台前半となる日も見られた。気温の上昇に伴い相場も上昇し、27 日には 800 円、28 日には 841 円の高値を記録。末端消費は鈍いものの、上物と中物の価格差は小さく、需給は比較的締まった状態が続いた。

＜7 月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和 7 年 7 月の肉豚出荷予測では 130 万 3,000 頭（前年同月比 99%）と予測している。

東京食肉市場の 7 月予定頭数は 1 万 6,000 頭、1 日あたりでは約 727 頭を見込んでいます。

農畜産業振興機構によると 7 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 8 万 8,100t（同 102.3%）、内訳は冷蔵輸入量が 3 万 3,700t（同 121.1%）、冷凍輸入量は 5 万 4,400t（同 93.3%）と予測している。

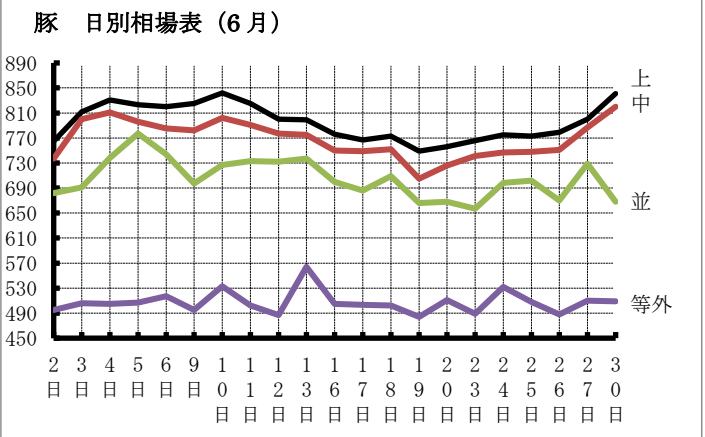
冷蔵品輸入量は、米国産の価格上昇により、価格面で優位性のあるカナダ産の増加が見込まれていること等から、大幅に前年同月を上回ると予測する。同じく 3 カ月平均でも前年同期をかなり大きく上回ると予測する。

冷凍品輸入量は、引き続き価格面で優位なブラジル産の増加が見込まれる一方、現地相場の影響によりデンマーク産やメキシコ産は減少が見込まれることから、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。なお、3 カ月平均は前年同期をやや下回ると予測する。

気象庁の予報によると、今年 7 月は全国的に気温が高くなる見込みである。猛暑による豚の発育不良に加え、東北や関東では疾病の影響もあり、出荷頭数は農林水産省の予測をさらに下回る可能性が高い。

これに対し、コメ価格の高騰や物価上昇の影響で、消費者の節約志向は一層強まっている。7 月はもともと豚肉の需要が少ない時期であり、ロースなどの中部位の動きは鈍いと見られる。その一方で、スソ物やひき材などの需要は引き続き堅調であり、学校給食が休みに入る 7 月下旬以降も底堅く推移すると予想される。

以上のことから当市場の上物平均価格は 800 円前後、中物平均価格 780 前後の展開と予想する。



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127